

# 稚魚から幼魚期におけるニゴロブナ0歳魚の動態および成長

磯田能年・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

## 1. 目的

重要漁獲対象種であるニゴロブナの0歳魚資源尾数は近年低水準な状況にあり、その要因の一つとして稚魚期以降(6月以降)の生残率低下が挙げられる。稚魚期までの生態については知見が多数あるが、それ以降については不明な点が多い。そこで本研究では、稚魚期以降の基礎的知見の収集のため、6月以降の分布および成長について明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

調査は、2022年6月から11月にかけて長浜市延勝寺地先の天然ヨシ帯周辺および、近江八幡市牧地先の造成ヨシ帯周辺において実施した。ニゴロブナ0歳魚の採集には、湖岸(水深1m未満)において張網(6~11月)と、やや沖合(水深1~2m)において電気ショッカーボート(8~11月)を用いた。得られたサンプルは、鱗の輪紋により年齢査定し、0歳魚を抽出した。各手法とも概ね2週間に一度実施した。

## 3. 結果

ニゴロブナ0歳魚は、延勝寺では6月17日から10月19日、牧では6月24日から11月10日にかけて採捕された(図1)。どちらの調査地点でも昨年度の延勝寺での調査と同様に、6~7月は湖岸のヨシ帯付近(張網)、9~10月は水深1~2mのやや沖合(ショッカーボート)で採捕された。

0歳魚の体長は、延勝寺において9月29日時点で56mm、牧において10月26日時点で58mmであった(図2)。昨年度の延勝寺では10月19日時点で80mmであり、今年度は両地点とも小型であった。特に、電気ショッカーボ

ートで採捕された9月以降の個体が小さかった。

これらのことから、今年度についてはヨシ帯を離れやや沖合に移動した後の餌料環境が良くなかった可能性が考えられる。次年度以降は種苗放流等を組み合わせて、稚魚期以降の成長要因を明らかにしていく。

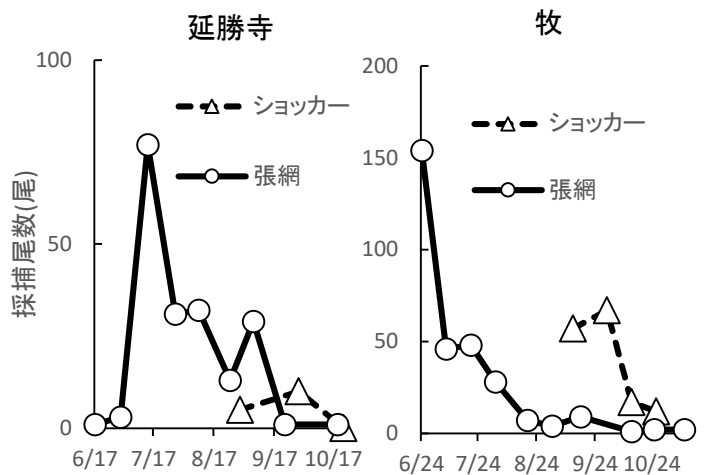


図1 ニゴロブナ0歳魚の採捕尾数

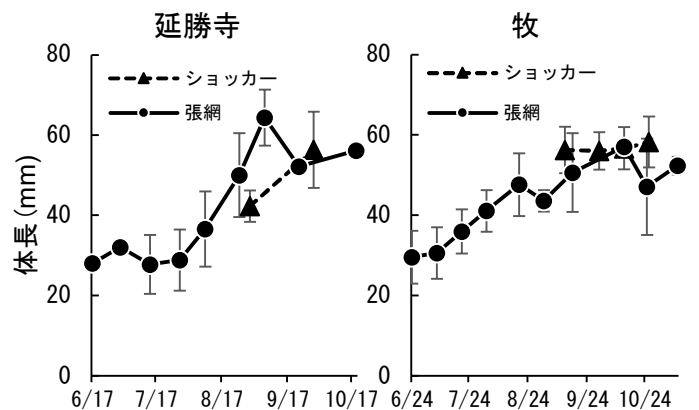


図2 ニゴロブナ0歳魚の平均体長